

| 重点取組分野               | 令和 4 年度  |   | 総括 |
|----------------------|--|---|----|
|                      | 具体的取組  | 自己評価結果  |    |
| 授業改善                 | ①重点研のテーマを「自ら問いを見つけ、本気で考えを深め、自らの言葉で語る子どもの育成」とし、社会科・生活科を中心に、子どもの考えを見取り、子どもが思考を大切にしたい授業展開を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。②授業研究を通して、子どもの主体性を引き出すための学習課程を検討し検証する。③授業の振り返りを大切に、子ども自身が学びを自分ごととしてとらえ、学んだことを実感・共感しながら深めていくことができるようにする。  | ①子どもたちが、学んだことを自分の言葉で語ったり、これまでの生活経験をふまえながら学習している内容と結び付けて語る姿がうまれた研究を通して、子どもの興味関心を引き出し、問題や問題解決までの見通しがもてるようにすることが有効だとわかった。③子どもの振り返りを大切にすることで、学びの自覚を促すことができた。  | A  |
| 道徳教育                 | ①全教育活動の中でふれあいや体験活動を重視し、自他を大切にしたい心育を育てる。②「特別の教科道徳」では、各学年に1度は授業を公開し、道徳教育の充実を図る。③たてわり活動を充実させ、6年生をリーダーに小集団を基本とした活動を通して、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。④友達や地域とのつながりを大切に、自ら進んであいさつができるようになる。  | ①全教科において体験活動を重視することで、思いやりの心育を育てるよう支援することができた。②各学年、年に1度は授業参観で「特別の教科道徳」の授業を公開し、保護者の方に道徳教育を知ってもらえることができた。③たてわり活動を通して、異学年交流をすることができ、相手を思いやる気持ちを育むことができた。④昨年度よりも進んであいさつをする子が増えた。                     | B  |
| 健康教育                 | ①市体力・運動能力調査、市学力・学習状況調査の生活・学習意識調査を分析し、生活習慣の改善に向けて、学校保健委員会等を通じて児童が課題解決を図る機会を設定する。②西富タイム(短縄や長縄)を計画的に実施し、楽しみながら運動する習慣を身に付け、体力の向上を図る。   | ①新体力テストの分析から、50m走に課題があると考え、運動委員会でドローキ遊びを企画した。児童は走る活動の楽しさを実感することができた。②毎週金曜日になわとびタイムを設けることで、どの児童も外に出て活動ができるようになり、基礎的な体力の向上につながった。今後もこのような取組を続けていくことが求められる。  | B  |
| 自分づくり教育<br>キャリア教育    | ①「自分づくりパスポート」を活用し、自分に合っためあてをもち、めあてに向かって活動に取り組むようにする。振り返りを大切に、自分の成長やよさを実感できるようにする。②自分の役割を明確にし、責任を果たしたり、頑張りが成長を仲間と認め合ったりする経験を重ね、自己有用感を高める。③社会科や生活・総合の時間などを通して身近な課題や社会の課題に触れ、自分でできることを考えるようにする。   | ①自分でめあてを決め、決められためあてに向かってどのように取り組むかを考え、活動後に振り返りを行うことで、自分の成長やがんばりを実感し、次の活動へつなげることができた。②係活動や委員会活動などで自分の役割をやり遂げ、友達に認められる経験を積み重ねることで、自己肯定感を高めることができた。③授業の中で、身近な課題や社会の課題について考え、自分でできることを見出すことができた。    | B  |
| いじめへの対応              | ①いじめ防止対策委員会を月に1回以上開催し、積極的にいじめを認知するとともに、再発防止、未然防止の検討を組織的に行う。②いじめについての研修を行い、教職員がいじめに対するアンテナを高める。③定期的に児童のいじめアンケートを行い、その結果を共有しながら少しの変化も見逃さない体制づくりをする。  | ①いじめ防止対策委員会を月に1回以上開催し、積極的にいじめを認知するとともに、再発防止、未然防止に努めた。②いじめ防止基本方針をもとに毎月の委員会で確認を行い、教職員がいじめに対するアンテナを高めた。③前後期それぞれ中ごろに児童に対するいじめアンケートを行うとともに、職員にも同様のアンケートを実施しその結果を共有した。                                | B  |
| 人材育成・<br>組織運営(働き方)   | ①経験の浅い教職員でメンターチームを組織し、ミドルリーダーの助言のもと、月1回の活動を継続して行う。②高学年では教科分担を行いながらチーム学年経営体制を推進し、人材育成を行う。③ミラリズムや電子申請システムの活用、外部委託などを行い、業務の精選、効率化、情報の共有化を図りながら、教職員の働き方改革を推進する。④週に1回教務会を行い、学校リーダーとして学校全体を見通しながら積極に学校運営に参画していく場とする。   | ①学級経営、成績処理など基本的な業務について、ミドルリーダーの助言のもと、共通理解を図ることができた。②チーム学年経営のもと教科分担を行うことで、教材研究を深めることができた。③ワックスやブル清掃などを外部委託にし、働き方改革につながった。④教務会を週1回行うことで、情報を教務で共有し学年やブロックに素早く情報を伝えることできた。                          | B  |
| 地域学校協働活動             | ①地域の人や材を生かした学習を行い、学びを広げたり、地域への愛着を深めたりする。②学校運営協議会を定期的に開催し、保護者・地域と学校教育目標を共有するとともに、様々な教育課題について意見を交換し、学校教育に反映させていく。③授業参観や懇談会、学校説明会、学校・学年だより、学校ホームページ等を通して保護者や地域に日々の教育活動等を具体的に発信し、学校教育への理解を深める。   | ①各学年地域の人や材を生かした学習を行い、学びを広げ、地域への愛着を深めた。②学校運営協議会を定期的に開催し、保護者・地域と学校教育目標を共有するとともに、様々な教育課題について意見を交換した。③学校における様々な機会を通して保護者や地域に日々の教育活動等を具体的に発信した。  | B  |
| 特別支援教育               | ①支援が必要な児童について個別の支援計画・指導計画を作成する。②校内委員会を定期的に開催し、児童の状況や支援方法について共通理解を図るとともに、教職員全体で情報を共有する。③一般級にいる支援を必要としている児童に対して特別支援教室「あおぞら教室」を設け、一人ひとりのニーズに合わせた指導を行う。  | ①支援が必要な児童について個別の支援計画・指導計画を作成して活用した。②主として職員会議を通して児童の状況や支援方法について共通理解を図るとともに、教職員全体で情報を共有した。③「あおぞら教室」では、担当、担任、保護者と共有しながら一人ひとりのニーズに合わせた指導を行った。   | B  |
| 児童生徒指導               | ①「西富スタンダード」について、全教職員で内容の共通理解を図りながら指導にあたる。②定期的に児童の情報を全教職員で共有し、学校カウンセラーやSSW、関係諸機関と連携して問題解決にあたる。③Y-Pアセスメントや日常の児童観察から実態を把握し、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、受容的な学校・学級風土をつくる。   | ①「西富スタンダード」について、全教職員で内容の共通理解を図った。②定期的に児童の情報を全教職員で共有し、学校カウンセラーやSSW、関係諸機関と連携して問題解決にあたる。③Y-Pアセスメントや日常の児童観察から実態を把握し、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、受容的な学校・学級風土をつくる。  | B  |
| 幼保小連携                | ①幼・保の育ちと学びを生かし、スタートカリキュラムを行い、なめらかな接続を図る。②幼保小職員同士で情報交換、授業参観、施設見学を行うなど交流を促進し、連携を深める。③様々な機会を捉えて小学校1年生と年長児の交流を推進する。  | ①入学前までに培ってきた力を小学校生活でも発揮できるように、「園ではどうしていたの？」というキーワードを使いながら、子どもの育ちと学びをつなぐことができるように務めた。②幼保小の職員が一緒に研修をしたり、見学や情報交換をしたりすることにより、園や小学校のことをより理解したり、交流を促進したりすることができた。③1年生と年長児との交流では、共通の体験をする機会を設けることができた。 | B  |
| ブロック内<br>評価後の<br>気付き | 年度当初に、富岡中ブロックで、児童生徒に育てたい力を設定した。目標は、次の2つである。「TWO YOU」①優…「自己にも他社にも思いやりのある子」②勇…「未来を見据え、一歩踏み出し、表現できる子」同じブロック内で授業を参観し、児童生徒や学校の様子をお互いに相互評価を行った。校内の重点研授業を見てもらい、概ね学校評価に照らして高い評価をいただいた。中学校と児童生徒交流をはじめ、コロナ禍で行われていなかった行事も復活し、少しずつ交流が盛んに行われるようになってきた。次年度は、対面での協議会等を通して、より小中ブロックの交流を活性化していく必要がある。 |   |    |
| 学校関係者<br>評価          | ・挨拶について…学校外では、保護者が範を示す意識をもつよう啓蒙したり、地域・保護者も挨拶の大切さを子どもたちに知らせる意味でも、返事が無くても挨拶を続けるようにしてもらいたい。町の中で挨拶してくれる子どもが増えたように思えるが、知らない大人に対しての挨拶は、難しい社会になっているので定着は難しいかもしれない。<br>・確かな学力について…学力を伸ばすには、基礎となる読書をするのが大切である。朝読書だけでなく、本を読む習慣をつけるようになり、豊かな読書により、知識・考える力をつけていってほしい。                            |   |    |
| 中期取組<br>目標<br>振り返り   | ・授業改善については、丁寧な教材研究や、授業研究に真摯に取り組む、どの教室でもしっかりと落ち着いた授業が展開されている。特に生活科、社会科の学習において「自ら問いを見つけ、本気で考えを深め、自らの言葉で語る子どもの育成」を研究主題として研究に取り組む授業研究を通じた成果を上げることができた。<br>・児童生徒については、児童支援専任を中心に組織的な対応を充実させ、担任だけではなく学年や関係職員で組織的な対応にあたることを旨としてきた。事案が生じたときにも迅速に対応し、保護者と連携しながら適切に取り組むことができた。                 |   |    |

| 重点取組分野               | 令和 5 年度   |  | 総括 |
|----------------------|---|--|----|
|                      | 具体的取組   | 自己評価結果   |    |
| 授業改善                 | ①重点研のテーマを「自分の成長を実感しながら、主体的に学び続ける子の育成」とし、社会科・生活科を中心に、子どもの考えを見取り、子どもの思考を大切にしたい授業展開を通して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。②授業研究を通して、子どもの主体性を引き出すための学習課程を検討し検証する。③授業の振り返りを大切に、子ども自身が学びを自分ごととしてとらえ、学んだことを実感・共感しながら深めていくことができるようにする。 | ①全教育活動の中でふれあいや体験活動を重視し、自他を大切にしたい心育の心育を育てる。②「特別の教科道徳」では、各学年に1度は授業を公開し、道徳教育の充実を図る。③たてわり活動を充実させ、6年生をリーダーに小集団を基本とした活動を通して、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。④友達や地域とのつながりを大切に、自ら進んであいさつができるようになる。                     |    |
| 道徳教育                 | ①全教育活動の中でふれあいや体験活動を重視し、自他を大切にしたい心育の心育を育てる。②「特別の教科道徳」では、各学年に1度は授業を公開し、道徳教育の充実を図る。③たてわり活動を充実させ、6年生をリーダーに小集団を基本とした活動を通して、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。④友達や地域とのつながりを大切に、自ら進んであいさつができるようになる。                            | ①全教育活動の中でふれあいや体験活動を重視し、自他を大切にしたい心育の心育を育てる。②「特別の教科道徳」では、各学年に1度は授業を公開し、道徳教育の充実を図る。③たてわり活動を充実させ、6年生をリーダーに小集団を基本とした活動を通して、主体性、思いやりの心を育てながら自己有用感を高める。④友達や地域とのつながりを大切に、自ら進んであいさつができるようになる。                     |    |
| 健康教育                 | ①体力テストを分析して、本校児童の課題を明確にしたうえで、運動委員会の活動や学校保健委員会等を通して運動を習慣化することを目指す。②縄跳びタイムを計画的に実施し、楽しみながら運動する習慣を身に付け、体力の向上を図る。  | ①体力テストを分析して、本校児童の課題を明確にしたうえで、運動委員会の活動や学校保健委員会等を通して運動を習慣化することを目指す。②縄跳びタイムを計画的に実施し、楽しみながら運動する習慣を身に付け、体力の向上を図る。   |    |
| 自分づくり教育<br>キャリア教育    | ①「自分づくりパスポート」を活用し、自分に合っためあてをもち、めあてに向かって活動に取り組むようにする。振り返りを大切に、自分の成長やよさを実感できるようにする。②自分の役割を明確にし、責任を果たしたり、頑張りが成長を仲間と認め合ったりする経験を重ね、自己有用感を高める。③社会科や生活・総合の時間などを通して身近な課題や社会の課題に触れ、自分でできることを考えるようにする。                    | ①「自分づくりパスポート」を活用し、自分に合っためあてをもち、めあてに向かって活動に取り組むようにする。振り返りを大切に、自分の成長やよさを実感できるようにする。②自分の役割を明確にし、責任を果たしたり、頑張りが成長を仲間と認め合ったりする経験を重ね、自己有用感を高める。③社会科や生活・総合の時間などを通して身近な課題や社会の課題に触れ、自分でできることを考えるようにする。             |    |
| いじめへの対応              | ①いじめ防止対策委員会を月に1回以上開催し、積極的にいじめを認知するとともに、再発防止、未然防止の検討を組織的に行う。②いじめについての研修を行い、教職員がいじめに対するアンテナを高める。③定期的に児童のいじめアンケートを行い、その結果を共有しながら少しの変化も見逃さない体制づくりをする。   | ①いじめ防止対策委員会を月に1回以上開催し、積極的にいじめを認知するとともに、再発防止、未然防止に努めた。②いじめ防止基本方針をもとに毎月の委員会で確認を行い、教職員がいじめに対するアンテナを高めた。③定期的に児童のいじめアンケートを行い、その結果を共有しながら少しの変化も見逃さない体制づくりをする。  |    |
| 人材育成・<br>組織運営(働き方)   | ①経験の浅い教職員でメンターチームを組織し、年間計画を作成し、見通しをもって研修を行う。②高学年では教科分担を行いながらチーム学年経営体制を推進し、人材育成を行う。③ミラリズムや電子申請システムの活用、外部委託などを行い、業務の精選、効率化、情報の共有化を図りながら、教職員の働き方改革を推進する。④週に1回教務会を行い、学校リーダーとして学校全体を見通しながら積極に学校運営に参画していく場とする。        | ①経験の浅い教職員でメンターチームを組織し、年間計画を作成し、見通しをもって研修を行う。②高学年では教科分担を行いながらチーム学年経営体制を推進し、人材育成を行う。③ミラリズムや電子申請システムの活用、外部委託などを行い、業務の精選、効率化、情報の共有化を図りながら、教職員の働き方改革を推進する。④週に1回教務会を行い、学校リーダーとして学校全体を見通しながら積極に学校運営に参画していく場とする。 |    |
| 地域学校協働活動             | ①地域の人や材を生かした学習を行い、学びを広げたり、地域への愛着を深めたりする。②学校運営協議会を定期的に開催し、保護者・地域と学校教育目標を共有するとともに、様々な教育課題について意見を交換し、学校教育に反映させていく。③授業参観や懇談会、学校説明会、学校・学年だより、学校ホームページ等を通して保護者や地域に日々の教育活動等を具体的に発信し、学校教育への理解を深める。                      | ①地域の人や材を生かした学習を行い、学びを広げたり、地域への愛着を深めたりする。②学校運営協議会を定期的に開催し、保護者・地域と学校教育目標を共有するとともに、様々な教育課題について意見を交換し、学校教育に反映させていく。③授業参観や懇談会、学校説明会、学校・学年だより、学校ホームページ等を通して保護者や地域に日々の教育活動等を具体的に発信し、学校教育への理解を深める。               |    |
| 特別支援教育               | ①支援が必要な児童について個別の支援計画・指導計画を作成する。②校内委員会を定期的に開催し、児童の状況や支援方法について共通理解を図るとともに、教職員全体で情報を共有する。③一般級にいる支援を必要としている児童に対して特別支援教室「あおぞら教室」を設け、一人ひとりのニーズに合わせた指導を行う。   | ①支援が必要な児童について個別の支援計画・指導計画を作成して活用した。②主として職員会議を通して児童の状況や支援方法について共通理解を図るとともに、教職員全体で情報を共有した。③一般級にいる支援を必要としている児童に対して特別支援教室「あおぞら教室」を設け、一人ひとりのニーズに合わせた指導を行う。  |    |
| 児童生徒指導               | ①「西富スタンダード」について、全教職員で内容の共通理解を図りながら指導にあたる。②定期的に児童の情報を全教職員で共有し、学校カウンセラーやSSW、関係諸機関と連携して問題解決にあたる。③Y-Pアセスメントや日常の児童観察から実態を把握し、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、受容的な学校・学級風土をつくる。  | ①「西富スタンダード」について、全教職員で内容の共通理解を図った。②定期的に児童の情報を全教職員で共有し、学校カウンセラーやSSW、関係諸機関と連携して問題解決にあたる。③Y-Pアセスメントや日常の児童観察から実態を把握し、「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、受容的な学校・学級風土をつくる。   |    |
| 幼保小連携                | ①幼・保の育ちと学びを生かし、スタートカリキュラムを行い、なめらかな接続を図る。②幼保小職員同士で情報交換、授業参観、施設見学を行うなど交流を促進し、連携を深める。③様々な機会を捉えて小学校1年生と年長児の交流を推進する。   | ①幼・保の育ちと学びを生かし、スタートカリキュラムを行い、なめらかな接続を図る。②幼保小職員同士で情報交換、授業参観、施設見学を行うなど交流を促進し、連携を深める。③様々な機会を捉えて小学校1年生と年長児の交流を推進する。  |    |
| ブロック内<br>評価後の<br>気付き |   |  |    |
| 学校関係者<br>評価          |   |  |    |
| 中期取組<br>目標<br>振り返り   |   |  |    |

| 重点取組分野               | 令和 6 年度 |        | 総括 |
|----------------------|---------|--------|----|
|                      | 具体的取組   | 自己評価結果 |    |
| 授業改善                 | c1      |        |    |
| 道徳教育                 | c2      |        |    |
| 健康教育                 | c3      |        |    |
| 自分づくり教育<br>キャリア教育    | c4      |        |    |
| いじめへの対応              | c5      |        |    |
| 人材育成・<br>組織運営(働き方)   | c6      |        |    |
| 地域学校協働活動             | c7      |        |    |
| 特別支援教育               | c8      |        |    |
| 児童生徒指導               | c9      |        |    |
| 幼保小連携                | c10     |        |    |
| ブロック内<br>評価後の<br>気付き |         |        |    |
| 学校関係者<br>評価          |         |        |    |
| 中期取組<br>目標<br>振り返り   |         |        |    |